

- 初等中等教育から高等教育まで一貫して「学力の3要素」を育成すること。
特に「知識・技能」を基盤とした「思考力・判断力・表現力」を重視することが必要。
- 「思考力・判断力・表現力」の育成やその評価のためにはマークシート式では限界がある。
＜例＞
 - ・ マークシートによる選択式では、思考力・判断力・表現力を構成する多様な要素を評価する上で限界がある。
 - ・ 選択肢自体がヒントとなり、必ず正答が一つ含まれるため、問題を正攻法で解くのではなく、選択肢を当てはめて逆算的に正答を見付けるなどの対応がなされる場合もある。
- 大学教育への円滑な接続に向けて、高等学校教育で育てたい力(※)を育てるためには、共通テストにおいて、それらの要素をよりの確に評価する記述式の出題を行うことが効果的と考えられる。

(※)＜例：国語＞(「高大接続システム改革会議中間まとめ 別添資料5」より)

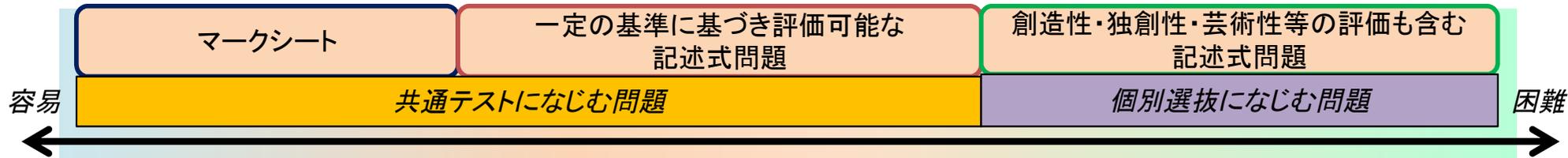
例えば、多様な見方や考え方が可能な題材に関する文章や図表等を読み、そこから得た情報を整理して概要や要点等を把握するとともに、情報を統合するなどして自分の考えをまとめ、他の考え方との共通点や相違点等を示しながら、伝える相手や状況に応じて適切な語彙、表現、構成、文法を用いて効果的に伝えること。

＜例：現行学習指導要領(「国語総合」の「書くこと」に関する指導事項)＞

- ・ 相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと。
- ・ 論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。
- ・ 対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書くこと。
- ・ 優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。

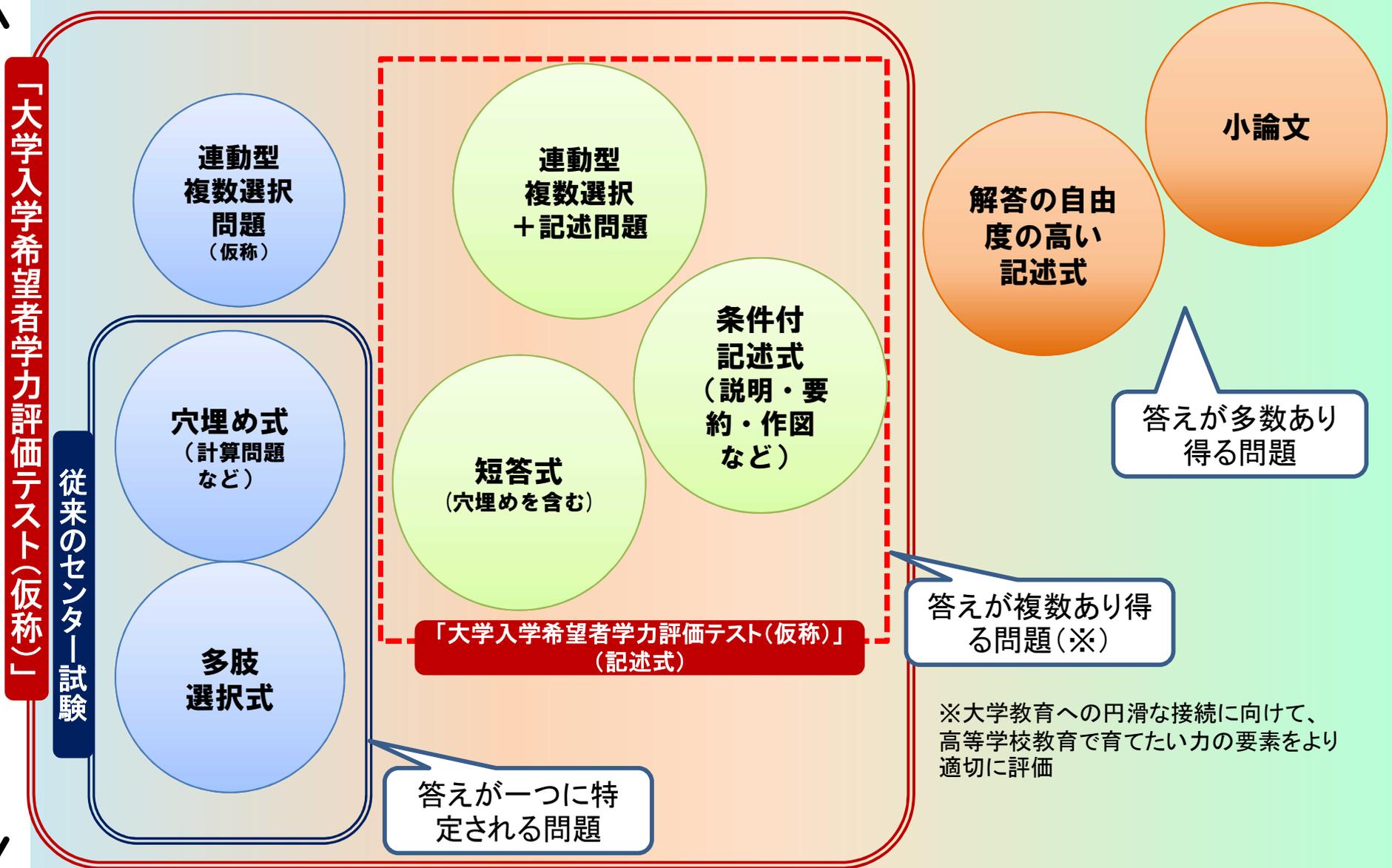
- さらに、共通テストを踏まえ、各大学が必要と判断する場合は、より解答の自由度の高い記述式を、各大学の個別選抜で出題することが考えられる。

採点可能性



思考力・判断力・表現力
知識・技能

評価の対象となる能力



※大学教育への円滑な接続に向けて、高等学校教育で育てたい力の要素をより適切に評価

※上記、○囲み部分は、あくまで問題形式の一例として挙げたもの。